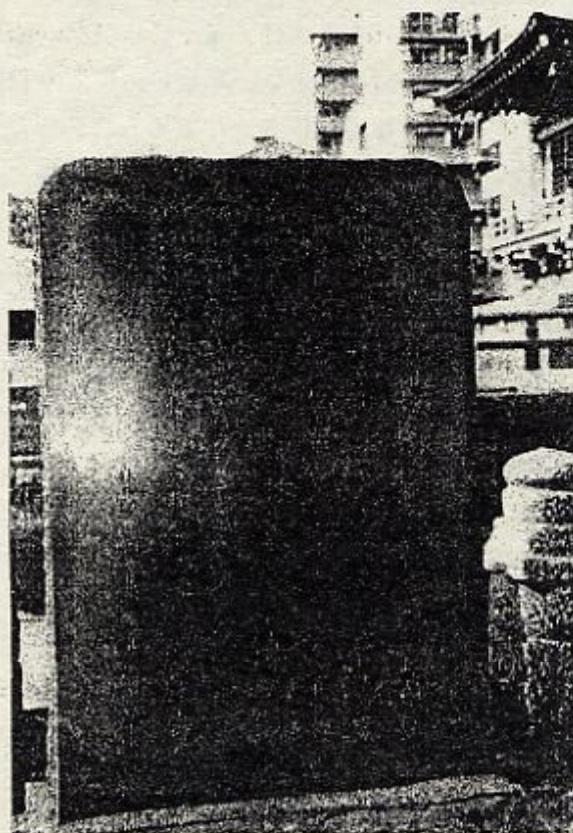


実験生理学の祖伏屋素秋(1747~1811)(ふせや そてき)碑



〔伏屋素秋顕彰碑〕

注入した実験で、小便の濾し役であることを述べたことは、画期的であった。しかし、このことを彼が発見していたことを知ったのは、昭和30年(1955)三木榮氏がその内容を高く評価してからであり、西洋の学者よりかなり早い業績であった。

昭和42年(1967)11月、日本医師学会・日本生理学会発起、日本医師会賛助で「実験生理学の祖伏屋素秋(ふせやそてき)」の碑が建てられた。

伏屋素秋は、河内日置荘(堺市)に生まれ、14歳のとき、和泉池田村(和泉市)万町の旧家伏屋氏の分家に養子となった。

はじめ漢方医学を学び、漢方医学者であったが、『解体新書』を読んで驚嘆、橋本宗吉、各務文献、斎藤方策らと交友し蘭医学を究め、大坂へ移り阿波座、堀江などで開業した。

その頃から猿や猫、蛙、牛を始め、種々の動物の解体を始め、寛政11年(1799)には女性の刑死体をもらい受け解剖、それらの所見を、『和蘭医話』(享和3年(1803))を著わした。

特にそれまで生殖中枢で精汁を作る器官だとされていた腎臓が、腎臓に墨汁を

「実験生理学の祖伏屋素秋(1747~1811)碑」の碑文 (原文縦書き・読み取り、／は改行)

泉北郡南池田村万町(マナヨリ)の旧家にて元禄の前頃万葉学者僧／契沖を世話した文化人伏屋重賢のあととりで琴坂と／号し橋本曼斎(ドンイ)各務(ガミ)文献斎藤方策と交わり／蘭方医学を修め寛政十二年四月大坂の刑場葭島で女刑屍を／解剖しました屢々動物実験を試み「和蘭医話」を著して卓／見を発表した通稱を万町権之進と言ひ初め堺に医業を／開き後に大坂堀江に移り文化八年十一月廿六日終わった／が墓が失われたからゆかりの地に近い北堀江の名刹あ／みだ池和光寺に碑を立つ／ 昭和四十二年十一月建／ 発起 日本医史学会 有志者

同 生理学会

賛助 日 本 医 師 会

※葭島(よしは)…江戸時代(1842年頃)、刑場として、

飛田・野田・木津川・千日・安治川があったが、

その内の木津川刑場のこと。木津川と三軒屋川に囲まれた「難波島」と呼ばれた中洲であるが、北部に芦が密生していたので、「葭島」と俗称された。